

# 仙台司教区 教区事務所だより



(第 67 号)  
昭和58年5月1日

### 青少年こそ 教会に活気を与える

#### 育成と指導は 教区の将来を左右する

ご復活祭が過ぎて教会はまた新しく活動を開始するが、さる3月末に仙台教区の将来にかかわる二つの出来事があった。ひとつは、川村、板垣両神学生の助祭叙階で、来年のいまごろは教区の新しい戦力として、久しぶりの司祭誕生を喜びあっていることだろう。もうひとつは、3月26日から3泊4日、東仙台にある仙台教区光が丘研修所(旧あけの星荘)で行われた第一回召命練成会である。各教会から集まった若者たちが、司祭や修道者、信徒とともに、神との深い結びつきを進める日々を過したことは、希望のしるしとして受けとめられるべきであろう。

#### 将来の教会の担い手

人類は間もなく記念すべき第二千年期の21世紀を迎える。これからどんな地球になってゆくかは見当もつかないが、そのときの社会や教会の担い手は疑いもなく現在の青少年に

ほかならない。また神の国建設の使命を連綿として受けつぎ、さらに後世に伝えるべき私たちは、いつも二十年、三十年後の教会を考へて活動してゆかなければならない。そのカギを握るものは青少年である。教会が青少年に大きな関心をもち、期待を寄せるのは当然のことなのである。

#### 教会活動の主役だった

かつて仙台教区は青年たちの活動にたいへん貴重な体験をした。第二次世界大戦直後の昭和20年代は、戦争中の反動もあって多数の男女青年が教会に集まった。戦前の教会の殻を破る画期的な発展だった。当時組織された仙台教区青年会連盟は、それら若者のエネルギーを結集して、教会活動の主役といつてもよかつた。そして三十年、ある者は司祭に、ある者は修道女に、そしてある者は立派な信徒家庭をつくつた。その子弟が現在の青少年

たちにあたる。その意味では、当時の青少年が今日の仙台教区を用意していたともいえる。

#### 若者たちを暖かく見守ろう

もちろん当時の社会情勢は今日と違いすぎるし、教会そのものも変つた。同一には考えられないだろう。しかし若者そのものは変らない。大きな可能性をひめ、活動力あふれるのは特権で、時には騒々しく、ハメをはずすことも若さのしるしである。正しい指導が必要なことはいうまでもないが、その可能性を信じて成長を見守る暖かい配慮はなによりも必要だろう。教区のすべての信者がこうした責任を果すことをのぞんでやまない。そして青少年の育成、指導にあたる方がたの活躍をいつそ願うものである。青少年の活発な活動が、教区に活気をもたらすはずである。

#### 司教日程 (4月7日現在)

- 5月7日 社会福祉法人評議員会(仙台)
- 9日 教区司祭団役員会(仙台)
- 9/10日 ベトレヘム会月例会(盛岡)
- 11日 社会福祉法人理事会(仙台)
- 15日 原町教会堅信
- 17/21日 女子修道会総長・管区長会 (山中湖)
- 22日 聖霊降臨祭・宮城県信徒連絡協議会(元寺小路)
- 30日 教区司祭団月例会(仙台)
- 6月3/4日 神学校常任委員会(東京)



5月8日は「広報の日」

「コミュニケーションと平和の促進」



国連世界コミュニケーション年にあたる今年の「広報の日」は、「コミュニケーションと平和の促進」というテーマで、5月8日に実施される。司教協広報委員会から各教会に送られる資料を用いて、それぞれの小教区教会での実施がのぞまれるが、仙台教区では、とくに平和については司教目標にも毎年示され考えて

川村・板垣神学生

おめでとう



カテドラルで盛大に助祭叙階式

川村英成(大湊教会)、板垣勤(花巻教会)両神学生は3月30日、司教座聖堂における聖香油のミサ中、教区長佐藤千敬司教によって助祭にあげられた。午後1時半、教区内各地から集まった約五十人と共に司教、受階者が入堂、共同司式ミサが始まった。まず佐藤修神学生(野田町教会)の教会奉仕者任命式があり、福音朗読後に叙階式が行われた。

司教は助祭職の重大さをさとし決意をただしたが、二人ははつきりと受諾の意志を表明した。連頰が唱えられ、祭壇の前にひれ伏した二人と一緒に全員が聖霊の助けを祈った。そして司教は祈りのうちに按手して二人を助祭に叙階した。このあと、助祭職を示すストラを肩から斜めにかけ、赤いダルマチカを着

きた。コミュニケーション、つまりお互い同士の話し合い、理解がすべての平和のもとになることはいうまでもない。小教区の平和という今年度の司教目標のため、積極的に教会報などの利用を考えたらどうだろうか。日本の教会、そして仙台教区の広報活動を助けるための広報献金もどうぞお忘れなく。

けた新司祭は、左右から司教のミサ進行を助け、そして初めての聖体授与の奉仕をした。聖香油のミサ(本来は聖木曜に行われるが仙台教区では速方の司祭のため聖水曜に行っている)は、同時に司祭職制定を記念するため、教区の全司祭が叙階の決意を新たにする日。そのため多くの司祭が家族や、友人知人と共にミサに与り、助祭叙階のよろこびを分かち合った。両神学生はこの後、神学四年の課程を学び、来年は晴れて司祭に叙階される予定である。教区全員がその日を待ちのぞみ神のお恵みをお祈りしよう。

「招きに耳を傾けて」

召命練成会に38人が参加



さる3月26日から29日までの3泊4日間、東仙台・光が丘研修所で第一回召命練成会が開かれた。これは仙台教区神学生養成委員会

(委員長・梅津明生神父)が主催したもので、北は弘前、南は郡山など教区内各地から、高校生以上の男女青年38人が参加した。今回の練成会の趣旨は、広く召命について考えようというもので、「招きに耳を傾けて」がテーマ。司祭や修道者への召命だけではなく、結婚生活か、独身生活か、どのような神の招きがあるかを、個人やグループの作業を通してそれぞれが真剣にさがしとめた。そのため練成会の指導にあたるスタッフには、司祭、修道者、夫婦、独身者が協力してチームをつくった。

召命について考えるということは、すぐに司祭や修道女を志願することにつながることも、もつとも深いそして具体的な信仰生活の反省をとまらぬものだけに、さまざまな意味での結果が期待できそうだ。すでに今年度も第二回の召命練成会が予定されている。

なお今回の催しには食事や宿舎などで、教会の婦人会や修道院の大きな協力があつた。とくに練成会の準備の段階から、参加者のグループごとに各修道院で特別に祈ってくれたりと、さらに参加者一人ひとりのために祈ってくれる人が多かつたということである。

黙想会 案内

主題 速きながめはたのしきかな。  
指導 押田成人神父(ドミニコ会)  
日時 5月14日午後6時半〜15日午後3時  
会場 聖ドミニコ会宮城町生活寮  
会費 一般五千円 学生四千円  
募集 15人 主催 申込は思想庵(980)仙台市  
連坊2の12の6渡辺清) 電 022-911-3579

仙台教区現勢統計表(1982.1.1~12.31)

例年のように今年も教区統計がまとめられた。これは中央への提出書類であつて、数字は資料として残るだけのものであろう。ただこの統計数字から私たちはいろいろなことを読みとることができる。仙台教区の信者総数は12546人。昨年より179人ふえた。成人の洗礼は156人で41人の増加、幼児洗礼も10人ふえて103人。しかし求道者は25人も減つて299人だけ。こう見てくるとあまり変りばえのしない毎年だといえそうだ。数字面にあらわれない活動が活発に行われていることを知つてはいるが、数字はその結果といえないこともない。いずれにせよ、仙台教区の現状を理解するために有力な資料であることにはちがいない。

1. 概況

面積 45.958.58km<sup>2</sup>(宮城,青森,岩手,福島)  
人口 7.138.623人 (信者数 12.546)

Ⓢ 司祭欄の( )は、その中の教区外居住者、修道会の( )はその中の志願者。

県別		宮城		青森		岩手		福島		合計		前年度	
信者総数		4803		2462		2351		2926		12546		12367	
居所不明者		464		148		153		243		1008		1042	
求道者		99		55		40		105		299		324	
教会数		17		13		13		14		57		57	
分教会						1				1		1	
巡回教会		3		1		2		3		9		9	
布教所		1		2		1		5		9		9	
男子修道院		1								1		1	
女子修道院		13		7		4		6		30		30	
会別	国別	邦人		邦人		邦人		邦人		邦人		邦人	
		外人	外人	外人	外人	外人	外人	外人	外人	外人	外人	外人	
司教		2								2		2	
教区司祭		22(4)		1		6		1		29(4)		1	
宣教・修道司祭	ドミニコ会	2						10		12		10	
	ベトレヘム会					15				15		16	
	ケベック会	4		12						16		15	
	グアダルペ会							1		7		1	
司祭合計		24(4)		7		6		12		32(4)		51	
神学生				1		1		1		3		3	
修道会	ラ・サール会	3		2						3		2	
	フランシスコ会			29		13		1		42		1	
	聖母被昇天会			31(4)		10				31(4)		10	
	盛岡ドミニカン					30(1)				30(1)		3(3)	
	会津ドミニカン							10(3)		10(3)		8(1)	
	ドミニコ女子	40		1						40		1	
	シャルトル聖パウロ	26				15				41		39	
	聖ウルスラ会	32(2)		4		19		5		51(2)		9	
	善き牧者会	5		1						5		1	
	オタワ愛徳修道会	10(4)		5						10(4)		5	
聖ヨゼフ布教	7								7		6		

	宮 城		青 森		岩 手		福 島		合 計		前 年 度	
ド・ノートルダム							26(2)	5	26(2)	5	20	6
無原罪聖母会							6	13	6	13	7	13
聖パウロ女子	7								7		7	
イエズス孝女会							1	2	1	2	1	2
聖母訪問会	2								2		2	
計	(6)		(4)		(1)		(5)		(16)		(12)	
	132	13	79	15	58	1	43	20	312	49	297	52

2. 社会事業

3. 教育事業

	数	人 数	前年度人数
病 院	1	ベッド数 130	ベッド数 125
診 療 所	1	年間診察数 2,600	年間診察数 2,640
老人ホーム	5	290	290
精薄者施設	1	32	34
養護施設	6	431	431
保 育 園	9	613	598

	数	生 徒 数	前年度生徒数
短期大学	3	1,156	1,156
専修学校	1	73	63
高等学校	8	5,836	5,183
中 学 校	6	1,095	1,075
小 学 校	8	1,828	1,845
幼 稚 園	54	8,391	8,618

寮	1	14	14
センター	4	利用者 17,541	11,993

	信 徒	未受洗者	計	前年度数
教会学校児童	454	962	1,416	1,560
子どもの要理研究	430	177	607	641

4. 秘 跡 ・ 移 動

	人 数	前年度数
洗 成 人	156	115
礼 幼 児	103	93
臨 終	34	28
堅 信	224	84
病者の塗油	87	66

	人 数	前年度数
結 信者同士	5組	7
婚 非カトリック者と	2	4
非キリスト者と	85	96
転入(教区外より)	145	141
転出(教区外へ)	156	219
死 亡	77	68

### 明るいイメージの教室

ドミニコ学院高・小増築落成

今年で学校創立三十周年を迎えた聖ドミニコ学院（仙台市角五郎二丁目2の14）では、かねて増改築をすすめていた小学校、高等学校の校舎がこのほど完成。さる3月25日午後2時から関係者を招いて、佐藤千敬仙台司教による建物の祝別および落成式を行った。

新校舎は鉄筋コンクリート4階建、建築面積一・二九・八〇平方メートル、普通教室、特別教室、図書室、小講堂などでほぼ半分ずつを小学、高校が使用する。従来の校舎のイメージを破る明るさをねらったもので、教室も廊下もカーペットを敷きつめたさん新なものになった。設計施工は戸田建設株式会社仙台支店、昨年の3月に着工し総工費は約五億九千万円。なお3階につくられた小聖堂には、ドミニコ学院同窓会が寄贈したカルパッチェ神父制作のステンド・グラス、復活と降誕の二面が飾られた。

### 四旬節の黙想

暁屋町教会 山田 虎夫



今年の四旬節黙想会は一本杉教会と合同という新しい企画で、講師には旧知の叶さんご夫妻の肝いりで上智大学の安斎伸先生をお招きしました。ご尽力下さった両教会の神父さま、叶さん、信徒会長さんに感謝します。

安斎先生のお話しは終始仙台弁で、仙台を離れて長いのによく忘れないなアーと思うくらい。みんなをよく笑わせながら、「日本人の心とキリスト教」というテーマを、ほんとうに分かりやすくお話しして下さいました。今年の「あけぼの」3月号に、先生の「わが国の宗教的慣習とキリスト教」という文章が掲載されていますので、皆さんもご一読下さい。黙想会のお話のすべてを申し上げることはできませんが、たいへん盛り沢山の内容で、いままも考えつづけています。

日本は経済第一主義で、一般に楽な生活を願い、それぞれが趣味に合った生活をのぞんでいる。しかしその中にも欲求不満、つまり心の不満がのこっている。そして人びとは自分の生命を燃やして生活していかない。不完全燃焼に終わっている。主が教え、実践されたように、私たちは初心にかえってお互いに愛し合い、連帯をつよめ、日本的なものの考え方もつて、今の世の世直しにつとめてゆかなければならない、という話でした。

### 米川 三経塚キリシタン殉教祭

5月15日(日) 午前11時 野外ミサ

参加ご希望の方はお弁当持参で、お集まり下さい。特別聖年の意向で行いますので、参加者は条件を果たすことで全免償が与えられます。

申込みは米川教会へ。  
電・〇二二〇四一五一二〇五四



### 春秋

典礼暦の頂点である過越の三日間、つまり聖木曜日と聖金曜日そして復活徹夜祭を盛大に祝うことは、バチカン公会議後に見られる近代典礼運動のひとつだ。

司教座聖堂元寺小路教会では昨年より御受難会の国井健宏神父の指導で、司教司式の聖なる三日間の典礼儀式を行っている。今年も国井神父は管区長の激務をさいて来仙してくれた。

典礼司教委の秘書局員として、典礼文書の作成や指導にあたってきた同神父はまた、鋭い日本の感覚と思索の持主。それだけに三日間の典礼儀式は本質をよく理解させてくれただけでなく、典礼儀式の美しさ、荘厳さでも参加した多くの人に深い感銘を与えたようだ。

さいきん信徒も過越の三日間の典礼に参加するようすすまられているが、平日という時間的制約もあってまだ徹底していない。典礼暦にしたがって進められている私たちの信仰生活。その頂点の典礼だけに、各小教区教会でも盛大に行い、多くの信徒が参加すべきだろう。

おそらくこうした典礼儀式が中心になって教会らしい雰囲気がつくられ、そこから教会活動がまた盛りあがってゆくような気がする。



一九五五年9月26日に花巻教会が誕生、3年まえに佐藤司教様をお迎えして、創立25周年の銀祝を盛大に行いました。この28年間、初代主任司祭A・ゲーヴィレル神父様がただひとりで司牧してこられました。全く家族的な教会です。現在の信徒数は約百人。転出信徒は数十人におよびます。スイスの信者の援助でできた聖堂をかねた司祭館、ホールをそなえた伝道館、そして新聖堂をもつカトリック会館があります。中庭にはやはりスイスから贈られた三つの鐘の鐘楼があつて、朝に夕に鳴りひびき、花巻市民からは鐘のある教会と親しまれています。

この28年間、花巻教会に神のお恵みがいかに大きかったか。この小さな教会から二人も司祭が誕生しました。神言会の及川正神父様と教区の平賀徹夫神父様、そして三人目がさきごろ助祭に叙階された板垣勤さんです。

花巻市は岩手県のほぼ中央、詩人宮沢賢治の故郷として知られています。教会は駅から歩いて5分、国道4号線から車で西へ三分く

らいの所にあります。創立当時の信徒はわずかに5人、それがゲーヴィレル神父様の昼夜を分たぬ布教活動で、百人を超える信徒教になりました。

主任神父様を、一言で紹介すれば、まさに「信念の人」といえます。夏休みも冬休みもなく、この28年間で花巻を留守にしたのは数年に一回の休暇でスイスに帰国したのと、年に一週間の司祭の黙想のときだけです。十年以上も前から毎週2日間の長期療養者への病院訪問、老人ホーム慰問を欠かしません。

花巻教会には北上川の向こうに教会墓地があります。荒地だったその土地の環境整理がたいへんでした。青年会が中心に信徒が協力して整地作業をしましたが、いつも神父様先頭でした。印象に残っているのは、2メートルの深さで数十メートルに及ぶ暗き排水溝の工事でした。神父様は毎日毎日、体中泥だらけにして何か月もかかって、ほとんどひとりでがんばりました。花巻教会の信徒は神父様に頭を下げつばなします。また、神父様を助けて28年間つとめてこられたカテキスタの加美山恵子さんも教会の大黒柱です。そして賄いの佐藤エミ子さんも20年以上も花巻教会に勤務しています。

現在の花巻教会の活動状況を見ますと、男子6人、女子2人で構成している教会委員会（典礼部、広報部、墓地部、会計部）を中心にして、すべての行事を毎月の委員会、また隔月には信徒全員の話し合いにはかつて決定し、実行するようになっていきます。とくに典

礼部長の小田代将正君の活動はすばらしく、信徒全体の信望をあつめ、花巻教会発展の原動力といえるでしょう。

これからの教会には、司祭の絶対的な不足が見られるようですが、そうしたことになったとき、私たちが牧者のいない羊の群にならないよう、信徒一人ひとりの協力でひとり立ちのできる教会にしておかなければなりません。そのとき教会の中心的な問題になってくるのは典礼のことで、典礼部が大切になってくると思われます。岩手地区では今年の2月に、第一回の教会奉仕者研修会を行いました。今年中に四回行う予定です。花巻教会ではこうした集まりに、典礼部を中心に積極的に参加したいと思っています。

すこし固いことを述べたようですが、最後に時々耳にするウワサ話。ちよつと手前ミソの感じもしますが、花巻教会のミソは聖歌が良いとよくいわれます。このわけは、花巻教会ではごミサのあと、毎週全員が神父様の指導で10分ないし15分間、聖歌のれんしゅうをしています。聖歌隊はありませんが、幼児を含めて信徒全員が聖歌隊です。なかでも先唱者の長南靖子さんの声はすばらしく、プロ歌手顔まけの歌唱力です。花巻教会全員聖歌隊はいつまでも健在です。（似内 稔）

仙台司教区事務所だより

昭和58年5月1日発行

発行所 仙台司教区事務所

980 仙台市本町一丁目2番12号

TEL 0222 22 7371